軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI 第 41 号
2024.02.23

ステージ袖に立つ君へ

寺田 和佳子

大賀ホールでの久しぶりの演奏が 4 月に迫っていますが、以前のように皆さんと元気にステージに立てる喜びを感じています。
歌えなかった時期をどう乗り越えて再び声を合わせることにしたのか、参加する団体それぞれが持つストーリーを想像しながら、聴くことも楽しみの一つです。

さてこの間の飲み会でも話した通り、この団はこのメンバー通信「TUTTI」でみんなで文章を紡いでいくことで、会えなくても繋がってきました。
「tutti」とは「一緒に」を意味しています。（練習中に「tutti で」と言ったら、「全員で一緒に歌う」という意味になります）今回は私も寄稿することにしました。

今回は、再びステージに立てる日々が帰ってきた記念でもあるので、この団のオリジナルである「美しい村」を原点回帰の思いを込め演奏することにしました。
合唱オペラ「軽井沢組曲・美しい村」は、2007 年に大賀ホールで初演されました。浅間山の噴火、宿場町の賑わい、避暑地を築いた先人へのオマージュなど、1000 年の喜怒哀楽を全 15 章の詞で表したもので、軽井沢にも人々で歌い繋げたい曲が欲しいという思いで、母が中心となり星野和彦さんに詩を、若松歓さんに作曲をお願いしました。
演奏会でよく歌ってきたのは「霧の峠道」「宿場さんざめき」「青い鉄道馬車」「大日向レクイエム」「美しい村」で、軽井沢の歴史や特徴をよく捉えた作品といえます。

例えば「霧の峠道」では、碓氷峠の険しさと、霧深さ、身代わりになった弟橘媛【オトタチバナヒメ】への想いをどう感じて歌うのか？　それには、歌詞をゆっくりと読み上げることに尽きるでしょう。
声の出し方や、強弱などのアーティキュレーションなどよりも先に、言葉としっ

かり向き合い、意味や風景を想像する。自分の中に情景を作り上げることが大切です。
まずは自宅で、文章の切れ目、意味、一息つく場所などを考えながら歌詞を読んでみてください。読んで、誰かに聞かせるのもありです。自宅での練習はこれで十分。
次の段階はそれをどう伝えるか？になりますが、練習の際には私から「何をイメージしたいから、こうしてみてください！」と言うようにしていきます。
作り上げているのは指揮者ではなく、歌い手である皆さん一人ひとりです。「私はそのイメージではないな！」と思うこともあるでしょう。そんな時はみんなと共有したい。
演奏をする皆さんが何を感じて、何を表現したいのか？を持って借宿公民館に集まれたら、次のステップにいかれそうな気がしています。
コロナ禍が災いで終わらず、シンフォの新たなスタートのきっかけとなること、みんなが元気で歌っていられる時間が長く続くことを期待して、今後も指揮させていただきます。

分か去れ

清水 俊直（テノール）

“かの時に　我がとらざりし　分か去れの　片への道は　いづこ行きけむ”
人生には、選択を迫られる場面がある。時を遡れない以上、現在の立ち位置から歩むしかないが、あの時、別の途に入っていたら・・・という想いは、誰にもあるだろう。
歳をとると、懐旧の情も増し、おりに触れ、あの日の分か去れは、どこに続いていたのかと、ふり返る事がある。
美智子上皇后のお歌には、深い味わいがある。
“さらしなは右　みよしのは左にて　月と花とを　追分の宿”
北国街道と中山道の分岐する追分の分か去れ、更科の月、吉野の桜と、踏み入る道の先は、大きく異なるが、どちらの途にも、替えがたい風情がある。
自ら選んだ道を悔いることは　したくない。

“馬上少年過 世平白髪多 残躯天所赦 不楽是如何” 大好きな政宗公の詩である。
若い頃は、「不楽是如何」を「楽しまずは、これ如何」と、読んでいたが、自らが白髪の身になってくると、「楽しまざれば、これ如何」と、読みたくなってきた。
あるいは作者は、ここに両方の意味を込めたのかもしれないが・・・
この歳になると、もはや分か去れの重大局面に出合う事もないかと思うが、老残の私には、日常ささいな選択に悩む日々が続いている。ああ、今日は借宿の合唱練習の日だ。寒い。行こうか、止めようか、クヨクヨする。独眼竜の一喝が響く。
「何の！　残躯は　天の許すところ　楽しまざれば　これ如何！」
老人は、平伏して　重い腰を上げるのである。

「 歩く 」

白枝 庸介（バス）

毎日１万歩あるきます。１万歩は距離にして７キロ、借宿公民館からであれば大賀ホールまでになります。私は歩くことが好きな“歩きニスト Alkinist”です。

還暦を過ぎた頃から徳川幕府の街造りに興味が湧き、古地図を手に今を重ねて調べ回ることが“歩き”始めでした。紀尾井町が紀伊、尾張、井伊の藩邸であったことや、東大の本郷キャンパスが加賀藩上屋敷であったことなどは有名ですが、町割りや街路、暗渠化した河川の(例えば)「谷中ヘビ道」など江戸の痕跡が今でも数多く残り、あちこちで往時の錦絵的情景を思い描いて楽しめるのです。

そのうちNHK『ブラタモリ』よろしく土地の高低や勾配、台地の淵や谷の形成を楽しむようになり平面から立体、歴史から地理に志向が広がり、起点から終点までを一気に歩き通して、多摩丘陵東端部の起伏と人工の都市造成とを体感することも楽しくなりました。

それがコロナになって旧街道歩きに変わり、完全に歩くことが目的化しました。初の非常事態宣言下、ゴーストタウンと化した日本橋からスタートして日光街道２１宿１５０キロを断続的に延べ１２日で完歩。次に水戸街道１８宿１２０キロを計７日で。そして今は中山道、日本橋から京三条大橋までの６９宿５３３キロ

の中ほどを歩き中です。この旧街道は信濃路、木曽路から美濃路までの至るところに人家の無い山道や草付き道、歩き辛い江戸期の石畳などが有り、また熊出没注意の峠を何度も越えなくてはなりませんが、一方で江戸時代の佇まいが残る道中で往時に思いを馳せることができるところが魅力です。終点の京三条大橋まで残り２０５キロ、錦絵の中に自分を投影しながら歩きたいと思います。

八百八町の街調べに始まって江戸地勢の体感、そして旧街道歩きによって私はすっかり Alkinist になったのでした。

さて、冒頭の 1 万歩あるきは、先春の移住後に町の景色と季節の移ろいを楽しみたくて始め、周辺を万遍無く歩けるよう六つのコースを設定して日替わりで楽しんでいます。霧で真っ白な朝は思わず口遊みます…『♪なにもない なにもみえ～ない～』また、急坂を登るときには何処からか聞こえて来ます…『♬ふみわけのぼる～うすいやま～』

昨一年の歩行記録を集計したところ歩数はほぼ 300 万歩、距離は約 2,100 キロでした。もちろん歩行による未病や健康増進効果も期待していますが、なによりもありがたいのは“幸せ効果”です。朝の陽ざしを浴びながら歩くと幸せホルモンのセロトニンが脳内分泌されるそうで、実際に毎朝ハッピーな気分になれますし旧街道歩きの最中に“ウォーカーズ･ハイ”とでも言えるような幸福感に全身が包まれたこともセロトニン効果によるものだと思います。時間だけはたっぷりある身分になりましたので、これからも元気な Alkinist でありたいと思います。

【編集後記】

今号から TUTTI 紙面はアートディレクターの白枝さんが担当して下さることになりました。歓迎感涙でございます。(岡田)

紙面づくりに口をはさんだところ上手に作業班に取り込まれてしまいました。「読みやすさ」と「無駄に手を加えない」をモットーにお手伝いしたく。(白枝)